

## 『こうま』

おの でら えつこ ぶん  
小野寺 悦子/文

たしろ ちさと/絵 福音館書店



こうまが うまれたよ。すぐに たちあがった こうまは、ひろい そうげんで たんぼぼや ちょうちょと あそびます。おかあさんの おっぱいを のんで げんきいっぱいです。ゆっくり ねむって あしたも たのしいこと たくさん あると いいね。

## 『はちみついろのうま』

こかせ さく  
小風 さち/作 オリガ・ヤクトーヴィチ/絵

福音館書店



かみの うつくしい むすめは、もりに すむ おにばばに うまにされて しまいました。たすかる てだては ないかと かんがえた むすめは、かじやの わかものに たすけを もとめま す。むすめは おにばばから にげて、もとの すがたに もどることが できるのでしょうか？

## 『ウマと話すための7つのひみつ』

かわた さん ぶん え かいせいしゃ  
河田 棧/文と絵 偕成社 645

ウマはウマどうしだけにつうじる「馬語」のようなものを話しているそうです。人とウマは おたがいのことばは わかりません。でも、ごくたまに、ウマの心や体にしぜんと反応する アンテナをもっているこどもも いるようです。さあ、あなたには馬語が わかるかな？



## 『現地取材！世界のくらし4 モンゴル』

げんちしゆざい せかい  
関根 淳/文・写真

尾崎 孝宏/監修 302



モンゴルは、国土の大半が草原で、家畜と共に草原を移動しながら暮らす遊牧民の人たちがいます。遊牧民たちはヒツジ、ヤギ、牛、馬、ラクダを五畜とよび、大切にしてきました。ナードムというお祭りでは、子どもたちが騎手となり、競馬が行われます。



# こしはうまどし



## 『ペニーさんと動物家族』

まりー・ホール・エッツ/作・絵

松岡 享子/訳 徳間書店 933



ペニーさんは みごとに育った野菜や花、じまんの動物たちを 農業祭に出品することにしました。入賞して賞金をたくさんもらったら、動物たちみんなで かんらん車にのるのです。動物たちは つぎつぎと さわぎを起し農業祭から追い出されそうになりますが、年老いた馬のリンピーのかつやくで、すてきなことが起こります。

## 『十二支のはじまり』

はせがわ せつこ ぶん やまぐち え いわなみしよてん  
長谷川 摂子/文 山口 マオ/絵 岩波書店

みなさんは 十二支を ぜんぶ いえますか？むかし かみさまが だした おふれによって このじゅんばんが きまったそうです。ことしは うま年です。うまは どうして 七ばんめなのか、ねこは どうして なかまには いないのか、よんでみてね。



## 『ガラスのうま』

そや きよし はやし あきこ かいせいしゃ  
征矢 清/さく 林 明子/え 偕成社 913

すぐりは まえ足がおれたまま にげだした ガラスのうまをおって、ガラス山のかあさんの小屋に たどりつきました。かあさんに おしえられたとおり 水がめの中をとおって、ガラスのうまを おいかけます。きづいたら すぐりのからだも はんぶんガラスになっています。すぐりは ガラスのうまを さがしだすことが できるのでしょうか？



## 『エドワードとうま』

あん・ランド/文 オーレ・エクセル/絵

谷川 俊太郎/訳 岩波書店

エドワードは マンションの21かいに すんでいます。ほんとうは うまを かいたいけど かせません。あるひ、エドワードは、ワゴンを ひいて はたらく スミティという うまと ともだちに なりました。どこへでも スミティと いっしょに でかけられるようになったのです。



